

香川県における水稻の新奨励品種「モチミノリ」について

藤田究・大川俊彦・森芳史・多田伸司  
石井清文\*・井之川育篤\*\*・吉田一史\*\*\*

「モチミノリ」は農林水産省農業研究センターにおいて育成され、1991年に品種登録された。本県では1990年より奨励品種決定調査に供試し、その特性について調査した結果が良好であったので、1993年に水稻奨励品種として採用した。「モチミノリ」の品種特性及び加工適性について検討した結果は、以下のとおりであった。

1. 「モチミノリ」は、「クレナイモチ」に比べて出穂・成熟期が6～7日早い、「中生の早」の糯種である。「クレナイモチ」よりやや短稈で倒伏に強く、長穂で穂数は少なかった。収量性は同程度で、玄米の外観品質はやや優れていた。いもち病には強く、穂発芽性は「やや易」であった。
2. 「モチミノリ」の加工適性については、「クレナイモチ」に比べて、精白米及びもちの白度がやや低く、アミログラムの最高粘度及びブレイクダウンがやや低く、もち生地の伸びが少なく、もち生地の硬化速度が早いという特徴が見られた。また、切りもちの官能評価では、伸びや粘りが「クレナイモチ」よりやや劣ったが、味の点ではやや良かった。
3. 以上の結果より、「モチミノリ」の栽培適地は県下全域と考えられた。栽培に際しては、短稈ではあるが、稈質そのものはあまり強くないため、極端な多肥栽培は避け、穂発芽性がやや易であるため、適期収穫に留意する必要があると考えられた。

キーワード:加工適性,栽培特性,奨励品種,水稻,品種特性,糯米,モチミノリ